

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり
～付けたい力と手立てを明らかにして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
6/9	48名	御船小	8/7	41名	御船小	9/26	32名	御船小	1/26	44名	広安西小

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマ設定

本年度の郡教科等研究会全体テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、小学校国語部会では、研究テーマを「『分かる・できる』『楽しい』国語科の授業づくり」として研究を進めていくことにした。また、本テーマの研究を進める上で、身に付けるべき具体的な国語の能力と手立てについて授業研究会で検証していくために、「付けたい力と手立てを明らかにして」をサブテーマとして設定した。国語科の学習において、付けたい力と手立てを明らかにして「分かる・できる」「楽しい」授業づくりをしていくことがねらいである。

本テーマの授業づくりには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不可欠であり、そのためには言語活動の創意工夫が必要である。つまり、本テーマは、これまでの言語活動を中心とした研究をもとに、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付け、さらに「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」という国語科の目標の実現に直結しているテーマであると考えられる。

② 基本方針

ア 講話・研究授業・授業研究会を中心に研究を進める。

イ 御船・甲佐・山都・嘉島部会と益城部会の2つの部会に分け、各部会理事は4名ずつとする。事前研・授業研の運営等は、各部会の理事が中心となって実施する。

ウ 研究授業では、授業者は「熊本の学び学習構想案」の型で指導案を作成し、「単元終了時の児童の姿」「単元を通した学習課題」「本単元で身に付けさせたい見方・考え方」を明確にして授業研究に臨む。

エ 授業研究会では、討議の柱を設け、柱を中心に、各会員の実践を踏まえ意見交換をする。

③ テーマに迫る研究のあり方

ア 講師の先生のご講話や模擬授業による授業づくりのポイント

北川雅浩教授（熊本大学大学院教育学研究科）によるご講話から「対話を通して学ぶクラスづくり」について、具体的な教材を基にそのポイントと手立てを学んだ。また、溝上剛道主幹教諭（熊本大学教育学部附属小学校）による模擬授業とその後のシンポジウムで、国語科の授業づくりのポイントを学んだ。

イ 研究授業の主張点

研究授業の主張点として、「熊本の学び」でポイントとなる3項目「単元終了時の児童の姿」「単元を通した学習課題」「本単元で身に付けさせたい見方・考え方」を明確にし、児童が見通しをもち、主体的に授業に臨めるようにした。

ウ 討議の柱を中心にした意見交換

研究授業の参観及び研究会の視点の中心となるものとして、討議の柱を設定した。限られた時間の中で研究を進めるためには、様々な研究の視点の中から本時の授業で明らかにされる部分に焦点を当てて討議を行う必要がある。事前研究会での協議をもとに討議の柱を決定し、授業研究会を行った。授業研究会では、全体での質疑応答の後、討議の柱を中心に少人数での班別協議を行った。その際、付箋紙を活用し、討議の柱に沿った意見交換がしやすいように工夫した。

(2) 成果と課題

① 成果

- ・第1回研究会では、北川雅浩教授（熊本大学大学院教育学研究科）をお招きし、「対話を通して学ぶクラスづくり」について、ご講話いただいた。対話を学ぶ意義、学習を深める対話に向けた「5ラインズ」、対話力を高めるアクティビティなど、国語科で対話力を育てるためのポイントを具体的な教材を基に分かりやすくご講話いただき、参加者にとって大変有益な情報が多く得られた研究会となった。
- ・第2回研究会では、溝上剛道主幹教諭（熊本大学教育学部附属小学校）をお招きし、「お手紙」（光村図書2年下）を使った「学びの入り口」を提案する模擬授業をしていただいた。その後のシンポジウムでは、教材研究の視点で話をしていただき、「一読者として読む」「学習指導要領に照らして読む」「先行研究を参照して読む」と、教材文の読み方を3点示していただいた。今後の教材研究の参考になったとの感想が多く聞かれた。
- ・第3回研究会は、御船小学校の校内研修と併せて行った。「『鳥獣戯画』を読む」（光村図書6年）を使った提案授業では、パンフレット作りに生かすために、作者の表現の工夫や効果について対話を通して考える児童の姿が見られた。研究会では、梶山範夫准教授（平成音楽大学）に、「自分が書こうとしているパンフレットに使えるかどうかの往復をさせる」「抽象化した表現技法を一般化させる」「言葉にこだわる・こだわらせる」といった助言をいただいた。参加者からは、児童が学びに対して目的意識や相手意識をしっかりとっていたなど、単元構成の参考になったという感想が多く聞かれた。

② 課題

今年度、久しぶりに全員参加で行うことができた研究会だが、同一校に会員が複数いる場合は、学校の都合で全員が参加できないことがあった。学びたい思いがあっても学べない人に、どう学びの機会を提供していくかを今後も考えていきたい。また、事前研では、参加対象者が連絡なく欠席してしまうことがあった。今後も、参加対象者への細かな連絡が必要であると感じた。

4 実践事例

(1) 授業の概要

単元名：とう場人ぶつたちの「心のつながり」を見つけながら読み、自分がいちばん心をうごかされたところを友だちとつたえ合おう「スーホの白い馬」

授業者：広安西小学校 小田 真莉絵 教諭

学級の実態として、叙述と結び付けて考えたり、前後の場面と結び付けて考えたりする力が十分に定着しておらず、語彙の少なさから、気持ちを想像したり自分の考えをもったりすること、心に残ったところを選んだり見つけたりすることでつまづく児童がいる。意見交流に積極的に参加できなかったり、発表も一部の児童に限られてしまったりしている。授業では、児童が「分かった・できた・楽しい」という実感がもてるようにするために、言葉に着目しながら登場人物の行動や気持ちを具体的に想像することを通して、全員が学習活動に参加でき、自分の読みをもつことができるような単元構成や細かな手立てが工夫されていた。また、学習したことを読書活動につなげることができるように、登場人物同士の「心のつながり」をテーマとした本を学級に置いていた。授業研究会では、「見通しをもって学習活動に取り組むことができ、読書活動が広がるような学習課題や学習過程になっていたか」「子どもたちが『分かった・できた』『楽しい』と思えるような授業、心のつながりを感じることができるための手立ては有効であったか」という討議の柱を設定し、班別協議や全体討議を行った。「児童の具体的な姿をイメージして、丁寧に授業づくりがなされていた」など、学びが深まる提案だったという意見が多く出された。また、日常的に言葉にこだわる指導をしていくことの大切さを確認することができた。

(2) 学習構想案

1 単元構想

単元名	とう場人ぶつたちの「心のつながり」を見つけながら読み、自分がいちばん心をうごかされたところを友だちとつたえ合おう「スーホの白い馬」（光村図書「国語 赤とんぼ」p107～126）
単元の目標	(1)身近なことを表す語句の量を増やすことができる。〔知識及び技能〕(1)オ (2)場面の様子に着目して、登場人物の行動について具体的に想像を広げながら読むことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ (3)文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ (4)言葉のもつよさを感じるとともに、物語を読むことに関心をもち、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の 評価 規準		① 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使っている。	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動について具体的に想像を広げながら読むことができる。 ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。	① 物語に関心を持ち、文章を読んで気づいたことや感じたことを積極的に共有し、課題解決に向けて粘り強く取り組んだり、学習の見直しをもって、感想を友達と伝え合ったりしようとしている。
	単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
物語を読むときに、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像しながら読み、読んで感じたことや考えたことを友達と共有することを通して、互いの思いを分かち合ったり、感じ方や考え方を認め合ったりしながら作品を読むことを楽しむ児童。				
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)			本単元で働かせる見方・考え方	
とう場人ぶつたちの「心のつながり」を見つけながら読み、自分がいちばん心をうごかされたところを友だちとつたえ合おう。			会話・したこと・様子に着目して行動の理由やスーホと白馬の関係を関連付けて考えることを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画 (14 時間取扱い 本時 9/14)				
過程	時間	学習活動		評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	<p>○これまでに学習した物語の学習を想起し、物語の読み方やこれまでに身に付けた力を確認する。</p> <p>○既習教材「お手紙」の学習をふり返り、登場人物たちの「心のつながり」に視点をあてて学習を進めていくことを確認し、単元のゴールを設定する。学習の見直しをもつ。</p>		<p>【知①】(観察)</p> <p>○今まで学習した物語から登場人物の行動や会話などを表す語句に着目して読み、語彙を豊かにしている。</p>
		<p>学習課題 とう場人ぶつたちの「心のつながり」を見つけながら読み、自分がいちばん心をうごかされたところを友だちとつたえ合おう。</p>		
二	10	<p>○物語の大体を捉える。</p> <p>○初発の感想を交流する。</p> <p>○スーホがどんな人物かたしかめる。</p> <p>○心のつながりが分かる叙述(会話・したこと・様子)を場面ごとに見つける。</p> <p>○【スーホが白馬を拾う場面】【白馬がひつじを守る場面】のスーホと白馬の心のつながりについて考える。</p> <p>○【スーホと白馬が競馬に出る場面】【白馬をとのさまにとられてしまう場面】のスーホと白馬の心のつながりについて考える。</p> <p>○【白馬が逃げ出す場面】【白馬が帰ってくる場面】のスーホと白馬の心のつながりについて考える。(本時)</p> <p>○【スーホが夢を見る場面】【馬頭琴を作り演奏する場面】のスーホと白馬の心のつながりについて考える。</p> <p>○物語全体を通して二人の心のつながりと結末について考える。</p> <p>○自分がいちばん心を動かされたところとその理由を伝え合う。</p>		<p>【態①】(観察・ワークシート)</p> <p>○物語の内容を大まかにつかみ、初発の感想を持ち、友達に伝えようとしている。</p> <p>★【知①】(観察・ワークシート)</p> <p>○人物の設定を捉え、人物を表す言葉を用いてまとめている。</p> <p>【態①】</p> <p>○心のつながりが分かる部分を本文や挿絵から見つけようとしている。</p> <p>★【思①】(観察・ワークシート)</p> <p>○行動や会話などの叙述と結びつけて、登場人物の行動について想像を広げながら読んでいる。</p> <p>★【思①】(観察・ワークシート)</p> <p>○行動や会話などの叙述と結びつけて、登場人物の行動について想像を広げながら読んでいる。</p> <p>★【思①】(観察・ワークシート)</p> <p>○行動や会話などの叙述と結びつけて、登場人物の行動について想像を広げながら読んでいる。</p> <p>【態①】(観察・ワークシート)</p> <p>○これまでの読みを振り返りながら、進んで話し合いに参加し、積極的に課題を解決しようとしている。</p> <p>★【思②】(観察・ワークシート)</p> <p>○心に残った言葉を選び、その理由や感想を書いて、友達と共有している。</p>
三	2	<p>○心のつながりがテーマになっている本を読んで、感想を書く。</p> <p>○お話を読んで、心を動かされたところを友達と伝え合う。</p>		<p>★【思②】(観察・ワークシート)</p> <p>○お話を読んで感じたことを友達と積極的に交流しようとしている。</p>

2 単元における系統及び児童の実態(略)

3 指導に当たっての留意点

- ・本教材と出会う際に、馬頭琴や冒頭部分の特徴にふれることで民話(新しいジャンル)への興味・関心を高められるようにする。
- ・導入時に既習の物語文で「心を動かされるところは一人一人違うこと」を共有し、本単元でも「自分の考えを伝えたい」「友達の考えを知りたい」という意欲を高められるようにする。
- ・言葉に着目して気持ちを想像したり、そこを選んだ理由を共有したりする活動に重みをおけるように

「心のつながりが分かる部分（叙述）」には、内容に入る前にサイドラインを引く活動を入れておくことで、全員が話し合う土台をつくるようにする。

- ・根拠となる言葉や表現は、立ち止まって動作化をしたり、問い返しや言い換えをしたり、経験を出し合ったりすることで、子どもたちが「ああ、なるほど」と感じられるようにする。
- ・今回は「心を動かされたところ」＝「登場人物同士の心のつながりが感じられたところ」として教材を読み、並行読書でその読み方を生かせるようにする。

4 本時の学習

- (1) 目標 二人の心のつながりを一番強く感じるところを選び、その理由を話し合うことを通して、登場人物の気持ちについて想像を広げて読むことができる。
- (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	3分	<p>1 学習の見通しを持つ。</p> <p>○前時までのふり返りをする。(セルフトーク)</p> <p>○本時のめあてと学習活動を確認する。</p>	<p>○単元のゴールを確認し、そのために前時までにしたことと本時がどの位置になるのかを単元計画表をつかって全体で確認し、本時のめあてにつなげる。</p> <p>○学習の流れを確認し、見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p>
		<p>【めあて】スーホと白馬の「心のつながり」を読むことができる。</p>	
展開	32分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>○二人の「心のつながり」を考えながら音読をする。</p> <p>○二人の心のつながりを感じた叙述(会話・したこと・様子)を選び、そこから考えたこと(選んだ理由)をシートに書く。</p> <p>○二人の心のつながりについて考えを出し合う。</p> <p>＜白馬のしたこと・様子＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おそろしいいきおいではね上がりました。 ・たづなをふりはなす・風のようにかけだし ・それでも、白馬は走りつづけてました。 ・走って、走って、走りつづけて <p>・あせがたきのように・大すきなスーホ</p> <p>＜スーホのしたこと・会話・様子＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はねおきてかけていきました。・はをくいしばって ・「白馬、ぼくの白馬、しないでおくれ」 <p>＜白馬＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「風のようにかけだし」を選びました。わけは、白馬の「全力でスーホのところに帰りたい」という気持ちを想像できるからです。 ・「走って、走って、走りつづけて」を選びました。わけは、ずっと走り続けているという意味だから、白馬の「痛くてつらくても最後にもう一度スーホに会いたい」という気持ちが分かるからです。 ・「はを食いしばって」を選びました。わけは、スーホの「白馬をこんな風にさせてしまつてとても可哀しい」という気持ちがそうぞうできるからです。 ・「ぼくの白馬」を選びました。わけは、スーホの「小さいころから大切に育ててきた自分の大切な家族」という気持ちが分かるからです。 	<p>○選んだところに付箋をつける。さらに、その文章の中から言葉をしぼって考えることができるように、</p> <p>○印をつけるようにする。板書では、黄色カードで示し、協調・焦点化していく。</p> <p>○会話、したこと、様子を、サイドラインで色分けをすることで根拠を会話、したこと、様子のどの叙述からえらんだのかを整理して考えることができるようにする。</p> <p>○白馬は会話文がないからこそ、様子を表す言葉やその表現にこだわることでスーホへの気持ちが表れていることに気付かせていく。</p> <p>○同じ叙述でも、友達異なる理由を聞くことで、より気持ちを想像することができることに気付かせていく。</p> <p>○以下のところは全体で立ち止まって問い返し、動作化、言い換え、経験や自分と重ねさせたりしながらスーホや白馬の様子や気持ちを深く考えられるようにする。</p> <p>「走って、走って、走りつづけて」 「はを食いしばりながら」 「ぼくの白馬」</p>
		<p>【具体的評価規準】観点 思①</p> <p>○行動や会話、様子などの叙述と結びつけて、登場人物の心情について想像を広げながら読んでいる。 (方法: 発言・ワークシート)</p>	
		<p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○友達との交流の時間を設定し、友達の考えからヒントをもらって自分の考えに生かすようにする。</p>	
終末	10分	<p>3 学習のまとめをする。</p> <p>○自分が一番「心のつながり」を感じたところとその理由をまとめる。</p>	<p>○最初の自分の考えと変わった場合は、付箋を移動させてよいことを伝える。</p> <p>○それぞれの言葉でまとめを書く。</p>
		<p>【まとめ】 心のつながりを一番感じたことば(文)は、「ぼくの白馬」です。わけは、スーホの「白馬は、ただの白馬ではなく、自分にとって大切な家族なんだ」という気持ちがよく分かるからです。</p>	
		<p>4 並行読書で読んでいる本の中から、心のつながりが感じられるところを見つける。</p>	<p>○見つけた言葉に付箋を貼ることで、あとでそこから選んで交流できるようにする。</p>